

- 江戸川・水フェスタ in いちかわ Eポートレース参加チーム募集…2面
- いちかわ環境フェア2013…3面
- 夢を持って野球ができる喜びを市川ドリームスター…4-5面
- 市川市地域福祉計画がスタート…6面
- 紅一点じゃ、足りない…8-9面
- 子ども村キャンプ参加者募集…10面

安全・安心を暮らしの中に

新たな住宅施策がスタート

市では、日本の高度経済成長に合わせ、1960年代半ばから人口が急増し、まちが発展してきました。時の経過とともに、地域に対する市民の愛着が深まるなか、生活の基盤となる住宅においては、急速な少子高齢化社会の到来、防災意識の向上

などの社会変化への対応が求められています。住宅のバリアフリー化や防災性能の向上、省エネルギー化などは、その対応の一例ではないでしょうか。市では、市民が地域で快適に暮らすことができるよう、良好な住環境

の整備に対する支援を総合的に行うため、住環境整備課を新設し、新たな事業を展開します。今回は、新年度からの住宅施策の方向性をお知らせします。
☎704・0064 住環境整備課

住宅施策の3本柱

- 質の高い住宅への転換の促進
- 分譲マンションの適切な維持管理の支援
- 地震・災害に強い住宅の促進

本年度の主な事業

あんしん住宅推進事業
既存の住宅やマンションの専有部分のバリアフリー化、防災性の向上、省エネルギー化などの改修工事費の一部について助成を行います。

マンション管理支援事業
分譲マンションへの支援として、県や各関係団体などと連携したセミナーや基礎講座の開催、管理組合を対象にしたマンション管理士の派遣などを行います。

空き家対策事業
増加する空き家に対して、「市川市空き家等の適正な管理に関する条例」による指導や勧告などの規制、空き家の有効活用に向けた施策展開などを行います。



市民のみなさまへ

住環境の向上へ踏み出す

市長 大久保 博



消防局屋上から市内を視察する大久保市長

市川市は首都圏の住宅都市として急速に発展してきましたが、人口は平成22年をピークに減少に転じ、本格的な少子高齢化の進展が顕著となっております。また、社会問題化している空き家などの増加、高度経済成長期に建設されたマンションの老朽化など、住宅を取り巻く環境に対する様々な影響が懸念されています。

このような住環境の変化に対応するため、市では本年度、街づくり部に住環境整備課を設置し、住生活基本計画を策定するとともに、良好な住環境に資する施策を積極的に進めていくこととしました。

その取り組みの一つとして、既存住宅の防災対策や高齢社会に備えたバリアフリーなど、安全で快適な住宅にリフォームするための改修工事費用に対して助成するとともに、

に、分譲マンションについては、管理組合に専門家を派遣し、適正な管理が進むよう支援してまいります。

さらに、近年、管理不十分な空き家などが増加しており、防災、防火、衛生上の観点から生活環境に影響を与えるようになってきました。市では、こうした事態を受け、空き家などが管理不全な状態となることを未然に防止するための対策を検討するとともに、「市川市空き家等の適正な管理に関する条例」に基づき、所有者などに対して、適正な管理を促してまいります。

このように本市の街づくりにおきましては、5年後、10年後を見据えた施策を展開し、今後も「住んでみたい街いちかわ」と「住み続けたい街いちかわ」となるよう、本市の魅力を高めてまいります。